

(5) カリキュラム企画運営会議

① 設置の趣旨（目的）及び組織

ア 組織設置の趣旨（目的）

カリキュラム企画運営会議は、学校教育学部及び学校教育研究科の教育課程の編成等に関して、改善・充実を図ることを目的とし、教育研究評議会に設置されている。

イ 組織の構成及び構成員等

カリキュラム企画運営会議は、①学長が指名した副学長、②教務委員会委員長、③教育実習委員会委員長、④ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長、⑤各専攻・コースから選出された教授又は准教授（講師及び助教を含む。）、⑥学校教育実践研究センター長、⑦国際交流推進センター長、⑧教育支援課長、⑨その他学長が指名した者の計22人で構成されている。

② 運営・活動の状況

ア 委員会等の開催状況

平成29年度においては、カリキュラム企画運営会議を9回開催した。

また、カリキュラム企画運営会議に、教科内容構成に関する科目構築のための専門部会、いじめ等予防対策支援プロジェクト実施専門部会、「21世紀を生き抜くための能力+α」育成に係る報告書作成専門部会、教育課程の編成及び学位授与の方針等改訂検討WG、英語コミュニケーション能力向上対策検討WG及び修学システム検討WGを設置した。

イ 審議された主な事項

- i) 平成29年度年度計画に係る実施計画
- ii) 「21世紀を生き抜くための能力+α」を備えた教員養成に対応したディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの改正
- iii) 『「21世紀を生き抜くための能力+α」の〈思考力〉育成に係る実践レポート』及び『「21世紀を生き抜くための能力+α」の〈実践力〉育成に係る実践レポート』の作成
- iv) 修学支援システムの検討及び構築
- v) 上越教育大学スタンダード及びルーブリック等の見直し
- vi) 平成30年度学校教育学部及び大学院学校教育研究科入学者に係る教育課程の一部変更
- vii) 平成29事業年度の業務実績に関する自己点検・評価
- viii) 平成29年度「教育の成果・効果に関する調査」（専門職学位課程修了予定者対象）の実施
- ix) 「教育の成果・効果に関する調査」（大学院学校教育研究科修了生等対象）の実施方針の策定
- x) 上越教育大学学校教育学部及び大学院学校教育研究科履修規程の改正
- xi) 英語でのコミュニケーション能力を高めるための授業科目案の検討

ウ 重点的に取り組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等

- i) ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの改正

平成31年度からの大学改革により、「21世紀を生き抜くための能力+α」を備えた教員養成に対応するため、「上越教育大学学校教育学部における卒業認定・学位授与、教育課程編成・実施及び入学者受入れの方針」等改正並びにスタンダード、ルーブリック及び教育課程見直しの考え方（平成29年3月22日カリキュラム企画運営会議）に基づき、カリキュラム企画運営会議の下に、「教育

課程の編成及び学位授与の方針等改訂検討WG」を置いて、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの見直しについて検討した。結果、学校教育学部、大学院学校教育研究科修士課程及び大学院学校教育研究科専門職学位課程ごとに、アドミッション・ポリシーを含め3ポリシーを一体的に取りまとめた案を策定し、カリキュラム企画運営会議で承認し、入学試験委員会との調整を経て、教育研究評議会で制定された。

ii) 平成30年度大学院学校教育研究科入学者に係る教育課程の一部変更

教育実践高度化専攻からカリキュラム企画運営会議に対し、平成28年4月1日採用等の教員にかかるプロフェッショナル科目について、当該教員の専門性を発揮するため、専門職学位課程に9科目を設定することについて要望があった。

また、臨床心理学コースからも、臨床心理士養成に加えて平成31年度より実施する公認心理師養成にかかり、教員1人を新規配置されることに伴い、修士課程に専門科目2科目を設定することについて要望があった。

上記の要望について、平成31年度大学改革を見越していることを勘案して履修規程を改正することとし、大学院の教育課程を変更した。

iii) 平成30年度学校教育学部入学者に係る教育課程の一部変更

臨床心理士養成に加えて平成31年度より実施する公認心理師養成にかかり、在学生の公認心理師養成大学院への進学を可能にするため、臨床心理学コースから、専門科目5科目の新設と7科目の名称変更について要望があった。

また、英語科目群から、外国語（英語）の教科化やアクティブ・ラーニングへの対応のため、教育実践科目1科目について授業方法の変更及び保健体育科目群から、人間教育学関連科目「スポーツ実践（選択必修）」について、例年一部の科目に集中していることから、内容を見直し、同科目4科目について新設の要望があった。

上記の要望について、平成31年度大学改革を見越していることを勘案して履修規程を改正することとし、学校教育学部の教育課程を変更した。

iv) 『「21世紀を生き抜くための能力+ α 」の〈思考力〉育成に係る実践レポート』等原稿のとりまとめ

カリキュラム企画運営会議の下に「21世紀を生き抜くための能力+ α 」育成に係る報告書作成専門部会を置き、『「21世紀を生き抜くための能力+ α 」の〈思考力〉育成に係る実践レポート』及び『「21世紀を生き抜くための能力+ α 」の〈実践力〉育成に係る実践レポート』原稿をとりまとめ、大学改革推進委員会に提出した。

③ 優れた点及び今後の検討課題等

ア 優れた点

i) 平成31年度からの大学改革により、「21世紀を生き抜くための能力+ α 」を備えた教員養成に対応するため、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを見直し、学校教育学部、大学院学校教育研究科修士課程及び大学院学校教育研究科専門職学位課程ごとに、アドミッション・ポリシーを含め3ポリシーを一体的に取りまとめた改正案を策定し、入学試験委員会との調整を経て教育研究評議会において承認・制定された。

ii) 『「21世紀を生き抜くための能力+ α 」の〈思考力〉育成に係る実践レポート』及び『「21世紀を生き抜くための能力+ α 」の〈実践力〉育成に係る実践レポート』原稿をとりまとめ、大学改革推進委員会に提出した。

イ 今後の検討課題

- i) 「21世紀を生き抜くための能力+α」を備えた教員の養成に対応したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの改正を踏まえた、新しい上越教育大学スタンダード等の策定と教育課程編成に係る対応
- ii) 平成31年度大学改革に伴う、授業時間割の編成に係る対応
- iii) 修学支援システムの構築及び拡張に係る対応